



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学入学式が挙行されました

歯学部長 宮崎 隆

平成24年度昭和大学入学式が、去る4月9日(月)午前10時より、原宿の明治神宮会館に於いて厳粛に執り行われました。当日は快晴で陽気に恵まれ、明治神宮境内の新緑と満開の桜が入学生を迎えてくれました。

今年の新入生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて、585名(編入生を含む)でした。ご父



母の出席も含めて、1800名収容の会場は2階席まで埋め尽くされました。昭和大学管弦楽団によるシベリウスの「四季」の演奏に引き続き、役員が登壇して開式しました。

式次第に従い、片桐学長から、「至誠一貫」という本学の建学の精神を集約した言葉をまず覚えて、知識や技能の習得だけでなく、高い倫理感と優れた人間性を持った医療人として大成するように心を引き締めて頑張るようにと告示がありました。続いて小口理事長から、本学の歴史と建学の精神について紹介があり、昭和大学宣言の最初の「医療人として人類への貢献に自らの人生を捧げる」ことを目標にして欲しいと祝辞がありました。新入生代表の医学部 奥田泰晃君のリードで、新入生ならびに昭和大学関係者全員で、昭和大学宣言を唱和しました。

役員が降壇し、新入生歓迎行事実行委員の歓迎の挨拶に引き続き、恒例になった応援指導部による新入生歓迎演武があり、最後にグリークラブのリードで校歌を斉唱し閉会しました。新入生は昼前に14台のバスに分乗して富士吉田校舎に向かいました。

今年も全国的に歯学部の志願者が激減するなかで、本歯学部は多くの志願者を集め、アドミッションポリシーに基づいて、本学で学ぶ意欲があり、基礎学力とコミュニケーション能力に優れた人材を選抜して入学させることができました。新入生が富士吉田校舎で充実した生活を送り、成長して旗の台校舎に進級してくるのを楽しみにしています。

大学院入学式が挙行されました

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

4月7日に上條講堂で医歯薬保の4研究科合同で開催されました。歯学研究科は一般選抜30名、社会人特別選抜10名の合計40名でした(医50名、薬8名、保20名)。過去最高の入学者数であり、本学大学院の評判が学内外で高くなってきたことはうれしいことです。指導教員の負担は増えますが、やりがいも増します。将来の歯学、昭和大学、地域医療を担う人材に育てられるものと期待しています。

また、学生時代に大学院の単位を取得する「マルチドクター制度」の学生もあらたに6名が増えました。学生時代から研究に接することにより、さらに高いゴールを目指してくれることでしょう。



昭和大学入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学の平成24年度入職式が、4月1日午前10時から上條講堂で開催されました。本年度採用された新入職員は、研修医(医師)85名、研修医(歯科医師)90名、事務員72名、看護師・助産師319名、薬剤師レジデント19名、その他の技術・技能職員40名(歯科衛生士6名、歯科技工士1名を含む)の合計625名でした(教育職員を除く)。昨年よりも研修歯科医師が24名も増えました。式は飯田人事課長の司会で進行され、最初に小口勝司理事長が、すべての職員が医療人の意識を持って自ら研鑽するとともに学生や後進の教育にも責任を持って欲しいと挨拶されました。



引き続き片桐 敬学長が、至誠一貫の言葉に集約される本学の建学の精神のもとに、職員すべてが奉仕の精神を持つことが重要であると挨拶されました。小口理事長から代表の原麻里子さんに辞令が交付され、全員で昭和大学宣言を唱和し、引き続き校歌を斉唱して10時半に閉会しました。新入職員が新しい職場に早く慣れて活躍することを期待します。

大講座部門制を導入しました

歯学部長 宮崎 隆

歯学部では教育・研究・診療の充実のために、これまで講座組織や歯科病院診療科（組織）の再構築・再編等を進めてきました。このたび学校法人として全学的に大講座部門制の導入を進めることになり、本歯学部においても、平成24年4月から新しい組織に移行しました。

大きな変更点は以下の通りです。

- 1) 大講座として、歯科保存学講座（歯科理工学部門、美容歯科学部門、歯内治療学部門、総合診療歯科学部門）、口腔病態診断科学講座（口腔病理学部門、歯科放射線医学部門）、全身管理歯科学講座（歯科麻酔科学部門、総合内科学部門）、スペシャルニーズ口腔医学講座（口腔衛生学部門、歯学教育学部門、地域連携歯科学部門、口腔リハビリテーション医学部門、障害者歯科学部門、顎関節症治療学部門）を置く。
- 2) 大講座には講座主任を置き、部門長と協同して講座の運営にあたる。
- 3) 大講座の各部門は従来の講座と同様に、当該担当科目の教育と（臨床系においては）診療に責任を持つ。
- 4) インプラント歯科学講座を新設する。

現在歯学教育が大きな変革期を迎えていますが、本歯学部は医系総合大学の環境の中で、本学の特徴であるチーム医療教育やオーラルフィジッショニズム教育を進めるとともに、歯学の特異性と専門性を生かした教育も推進しなくてはなりません。そのために、今回の新しい講座組織のもとで本歯学部の教育・研究・診療がさらに充実するように、関係者一同のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

| 講座 | 部門 | 講座主任/部門長 |
|-----------------------------|---------------|----------|
| 口腔解剖学 | | 中村雅典教授 |
| 口腔生理学 | | 井上富雄教授 |
| 口腔生化学 | | 上條竜太郎教授 |
| 口腔微生物学 | | |
| 歯科薬理学 | | 山田庄司教授 |
| 歯科保存学 (主任:宮崎 隆教授) | 歯科理工学 | 宮崎 隆教授 |
| | 美容歯科学 | |
| | 歯内治療学 | |
| | 総合診療歯科学 | 長谷川篤司教授 |
| 歯周病学 | | 山本松男教授 |
| 歯科補綴学 | | 馬場一美教授 |
| 顎口腔疾患制御外科学 | | 新谷 悟教授 |
| 歯科矯正学 | | 横宏太郎教授 |
| 口腔病態診断科学 (主任:岡野友宏教授) | 口腔病理学 | 美島健二教授 |
| | 歯科放射線医学 | 岡野友宏教授 |
| インプラント歯科学 | | 尾関雅彦教授 |
| 小児成育歯科学 | | 井上美津子教授 |
| 高齢者歯科学 | | 佐藤裕二教授 |
| 全身管理歯科学 (主任:井上 紳教授) | 歯科麻酔科学 | 飯島毅彦教授 |
| | 総合内科学 | 井上 紳教授 |
| | 口腔衛生学 | 向井美恵教授 |
| スペシャルニーズ口腔医学 (主任:向井美恵教授) | 歯学教育学 | 片岡竜太教授 |
| | 地域連携歯科学 | 佐野晴男教授 |
| | 口腔リハビリテーション医学 | 高橋浩二教授 |
| | 障害者歯科学 | 船津敬弘准教授 |
| | 顎関節症治療学 | 船登雅彦准教授 |

インプラント歯科学講座担当教授に就任しました

インプラント歯科学講座 尾関 雅彦

私は昭和54年に東京医科大学歯科大学歯学部を卒業し、口腔病理学や口腔外科学を学んでから、昭和60年に昭和大学に赴任しました。昭和63年に本学歯科病院へローネマルクインプラントを導入して以来、こんにちまで



歯科インプラントの診療と研究に携わってきました。インプラント治療を成功させるためには、歯科放射線科、口腔外科、補綴歯科、歯周病科、歯科麻酔科や矯正歯科などの専門知識と治療法を統合するだけでなく、近年では形成外科や耳鼻科との集約的診療が不可欠となっています。また看護師、歯科衛生士ならびに歯科技工士の方々の協力も欠かせません。インプラント治療に係わる医療従事者が一致団結して、本学歯科病院インプラントセンターが日本一のインプラント診療施設となるように努力するとともに、インプラント歯科学講座を質実剛健の精神で発展させたいと思います。どうか御指導、御支援下さいますようお願い申し上げます。

顎関節症治療科診療科長に就任しました

スペシャルニーズ口腔医学講座
顎関節症治療学部門 船登 雅彦

本年4月1日付で歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療学部門准教授ならびに歯科病院顎関節症治療科診療科長を拝命いたしました船登雅彦と申します。私は1981年から歯科補綴学を専門として学生ならびに研修医の教育、研究、臨床に従事してまいりました。



臨床においては1983年から顎関節症科（2004年に新設）の初代科長であります古屋良一教授の下で顎関節症の治療に携わり、多くの患者さんを診察し、広い経験を積んでまいりました。このたび“顎関節症治療科”の診療科長を拝命し、これまでの自分の経験を生かし患者さんのお役に立てればと思います。また、歯科病院における診療参加型教育を通してオーラルフィジッショニズムの育成の一翼を担えればと思います。本学の各診療科と連携を図り、職員の方々のご協力を得ながら顎関節症治療科を発展させ、他に類の無いユニークな診療科にしたいと思っております。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜れますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

障がい者歯科診療科長に就任しました

スペシャルニーズ口腔医学講座
障害者歯科学部門 船津 敬弘

この度、歯科病院に新設されましたスペシャルニーズ歯科センター障がい者歯科の診療科長を拝命いたしました船津敬弘と申します。私は本学14回生で、平成8年に卒業後小児歯科に在籍し、平成16年9月に歯科病院4階小児歯科診療室内に診療部門として障がい者歯科が設立されて以来、佐藤昌史前科長のもと障がい者の診療に携わってまいりました。今回新たにスペシャルニーズ歯科センターとして、場所を1階に移して開設の運びとなりました。当科は歯科医療に特別な配慮が必要（スペシャルニーズ）な種々の障がいのある方々を、年齢を問わず対象として、器質的疾患と機能的疾患とを総合的に診断し、口腔内全体の治療と形態的・機能的回復およびその後の健康管理を行ってまいります。近隣の品川区、大田区に障がい者の歯科診療を行う2次医療機関がないこともあり、地域の中核的センターとなるべく精進してまいります。今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



D6就職活動実践研修が実施されました

歯学部マッチング支援委員会 佐藤 裕二

4月6日に就職活動実践研修「～選ばれる秘訣～」がANA ラーニング:塚崎洋子先生を講師にお招きして開催されました。知識や技能を教育することは当然ですが、立派な社会人を育てることも重要と考え、今年度の6年生から開始しています。この研修は、昨年度の2月末に6年生に実施した「歯学部就職支援講座:好感度で差をつける身だしなみ・メイクアップ講座」に続くものですが、相互実習や講演であったという間の2時間でした。今年の6年生は少し違ってくることを感じました。本学卒業生の評判がさらに高まってくれることを期待しています。



白衣授与式 進級式が行われました

教育委員長 井上 美津子

平成24年度の昭和大学歯学部白衣授与式は、4月2日(月)の午前10時45分より旗の台校4号館600号教室で行われました。当日は昭和大学の入職式と重なったため上條講堂は使えませんでした。新5年生の学生は皆 厳粛な表情で集合しました。臨床実習責任者の長谷川教授の司会のもと、教育委員長の開式の辞で始まり、校歌斉唱、宮崎学部長からの告辞のあと、いよいよ白衣授与となり、8名の臨床系教授から学生に順次白衣が授与されました。昭和のワッペンを付けた新しい白衣を着ることで、学生は臨床実習への心構えを新たにされたものと思われ、続いて学長、歯科病院長、看護師長からの暖かい励ましを含めた祝辞のあと、3月で臨床研修医を修了した大学院生の村上浩史君から先輩としての経験談やアドバイスなど後輩への贈る言葉がありました。また今年からは各式典で「昭和大学宣言」を行うこととなり、5年生代表の楠本友里子さんを中心に昭和大学関係者一同で宣言を読み上げました。学生部長による閉式の辞のあと、皆で記念撮影を行って、式は無事終了しました。

3月中旬にオリエンテーションを行った2年生を除いて、3年生から6年生までの進級式は、4月2日と3日の午後にそれぞれの講義室で行われました。新しい学年のシラバスが配布され、履修についての説明や諸注意があり、学年によっては指導担任の紹介も行われました。

新年度に学生の皆さんが意欲をもって過ごしていただけるよう、できるだけサポートを行いたいと考えています。



昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

菅沼 岳史准教授(歯科補綴学)、瀧戸 次郎助教(口腔解剖学)、大塚 裕忠助教(口腔解剖学)、坂上 斉助教(歯内治療学)、舘 慶太助教(歯科補綴学)、鈴木 奈緒子助教(歯周病学)、府川 有紀子助教(歯周病学)、吉田 美智助教(歯科矯正学)、二木 克嘉助教(歯科矯正学)、八十 篤聡助教(病院長直属)、西村 晶子助教(病院長直属)

D5臨床実習が改訂されました

歯学教育研修センター 長谷川 篤司

本学臨床実習は、臨床で患者様と接しながら医療人としての力を発揮できる歯科医師の養成を目標としています。本年度は「診療参加型臨床実習体制の強化」と「十分な臨床実習期間の確保」に取り組んでいます。本年度は、本学コンピテンシーに基づいた到達目標を明らかにして教員、学生で共有し、学生が診療参加できる優先ユニットを設定しました(保存歯学系臨床実習)。さらに、技能教育充実のためにスキルラボ室を約2倍の面積に拡張し、シミュレーターの増設、医療面接やPBLなどに使用できる多目的室の設置、ロボットの常設など施設充実を図りました。また、ここでの技能トレーニングの成果は視覚資料として電子ポートフォリオ上で随時閲覧・振り返りができます。一方、実習期間を前年度の41週間から45週間に延長して学生が診療参加できる機会をより多く確保しました。診療参加の機会はD6にも拡張され、選択実習やアドバンス選択実習でも臨床実習が計画されています。

武重優秀クラブ賞 歯学部長賞を受賞しました

歯学部弓道部主将 D4 泉 彰人

前年度に引き続き、今年度も武重優秀クラブ賞歯学部長賞という名誉ある賞を受賞できたことに、弓道部部員一同喜んでおります。私たちの常日頃の成果がこの様に評価されたことを、大変ありがたく思っております。

今年度の歯学部弓道部の現役部員は上級生が少なく、下級生が多いというような人数でした。しかしながら、現役部員の普段からの努力、部員一同の頑張り一つとなり、オールデンタル個人準優勝、第4位という結果を残すことが出来ました。団体戦の結果におきましては、部員一同まだまだ納得のいかないものとなり、次年度のオールデンタルでの上位入賞が大きな目標となりました。

オールデンタルや他試合での結果や歯学部長賞受賞は現役部員の頑張りだけでは到底成し遂げられない事であり、OB、OGの先生方のご支援、そして宮崎先生のご尽力のおかげだと今更ながらに感じております。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後もこの賞に恥じぬよう精進していきたいと思っております。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

5月27日(日):学祖祭

6月 1日(金):D2防災訓練

6月16日(土):父兄会総会

6月23/24日(土、日):富士吉田寮祭・オープンキャンパス

戦略基盤研究成果発表会が行われました

歯学部研究活動委員会 新谷 悟

去る平成24年3月17日(土)に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に伴う大学院歯学研究科・口腔癌包括研究センター合同のシンポジウムが行われました。

まず、特別講演1として東京大学バイオエンジニアリング選攻の鄭 雄一教授から再生誘導能をもつインテリジェント型インプラントデバイスということで、三次元積層造形によるハイドロキシアパタイト人工骨を作製するとともに、骨細胞の入りやすい「連通孔」を持つテトラポッド状のリン酸三カルシウムを作製し、骨誘導を促進することに成功した研究成果などを講演していただきました。

また、特別講演2として、国立がんセンター分子細胞治療研究分野の落谷孝広教授からは細胞分泌顆粒 exosome による疾患の診断・治療ということで、癌細胞が分泌する microRNA や各種の分子を含んだ分泌顆粒の診断、治療に関する可能性や植物が分泌する exosome の人体への影響や最新の核酸治療の現状などを講演していただきました。

非常に興味深い講演内容に、100人余り集まった会場は熱気にあふれ、活発な質疑応答がなされました。さらに講演後の一般演題においても、口腔癌の分子基盤における解析やデンタルイノベーションを目指した集学的研究としてのアンチエイジングに関する発表が数多くなされポスター会場も熱を帯び時間のたつのを忘れて若い研究者が討論を繰り広げていました。このように、盛会のもとシンポジウムは幕を閉じました。

診療統計(平成24年3月分)

事務課医事係 村田 久子

| | 患者数 | 1日平均 | 前月1日平均 | 前年1日平均 |
|------|--------|-------|--------|--------|
| 外来患者 | 21,273 | 818.2 | 749.5 | 679.7 |
| 入院患者 | 467 | 15.1 | 15.1 | 14.1 |

編集後記

歯科薬理学講座 坂井 信裕

今年は全国的に気温の低い日が多かったため、東京でも桜の開花宣言は平年より5日遅く発表されました。しかし入学式当日が満開となり、新年度の幕開けに相応しい華やかな景色とともに、新入生たちは新しい生活に胸を躍らせているようでした。

年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿下さいました諸先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。